

平成9年度厚生省心身障害研究  
「母子保健事業の評価に関する研究」

難聴受診時年齢と3歳児健康診査との関係について  
(分担研究：3歳児健診時における聴覚検査の評価)

川城信子

国立小児病院耳鼻咽喉科

要約：東京都における3歳時の難聴の発見率は、平成7年度0.01%であった。厚生省案と指こすりによる難聴のスクリーニングの効果は上がっている。一方、国立小児病院における3歳児の精密検査難聴はなく、滲出性中耳炎や鼻咽腔閉鎖不全が診断された。難聴のため受診した年齢は2歳代が最も多かった。3歳以後に受診し、難聴診断が遅れた症例について検討した。

見出し語：難聴受診時年齢，3歳児健康診査

目的

国立小児病院耳鼻咽喉科に受診した3歳児の精密検査の現状について報告し、難聴のため受診した年齢を比較検討することによって、3歳児健診の意義について検討した。

結果

1) 平成7年度の東京都の結果は区部では難聴8例、市町村部では1例と計9例の難聴が診断された(表1)。

表1 東京都における3歳児健診結果

	特別区	市町村
受診対象者	61574	33817
質問票回収数	51266	29249
ささやき声による検査回収数	50120	28674
保健所での1次健診受診者数	51266	29062
精密健診票の発行数	301	192
精密健診受診者数	118	142
難聴なし	67	87
感音難聴	8	1
その他の難聴	28	34
言語障害	4	14
要観察の言語障害	312	240
滲出性中耳炎	40	49

東京都母子保健課  
(平成7年4月～平成8年3月)

2) 国立小児病院の結果では滲出性中耳炎が各年度ともに多く、言語発達に問題がある例が多かった。鼻咽腔閉鎖不全のように発見しにくい症例があった。難聴を疑われた症例は全例正常であった(表2)

表2 国立小児病院における精密検査受診結果

	平成7年	平成8年	平成9年
滲出性中耳炎	8	4	6
言語発達遅滞	3	0	4
小耳症	2	0	0
鼻咽腔閉鎖不全	1	0	0
構音障害	1	0	0
鼻炎・アデノイド増殖症	0	1	1
正常	3	1	6
計	18	6	17

3) 難聴あるいは言葉の遅れを主訴に来院し、難聴と診断した症例の受診時年齢は、平成7年では0~1歳6カ月までが14例、1歳6カ月から3歳までが12例であり、3歳では1例と少なかった。依然として2歳代で言葉の遅れに気づいて受診する症例が多い。平成8年、9年では1歳6カ月から3歳の間の受診が最も多かった(図1)。

1歳6カ月健診でこのような症例がもっと早い年齢でスクリーニングできる可能性がある」と期待できる。

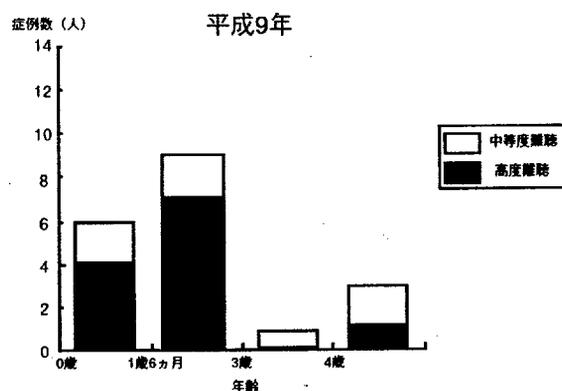
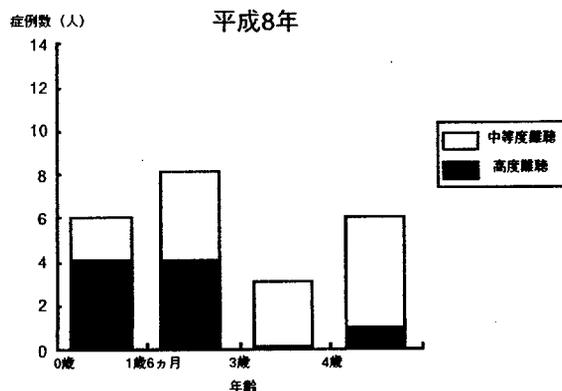
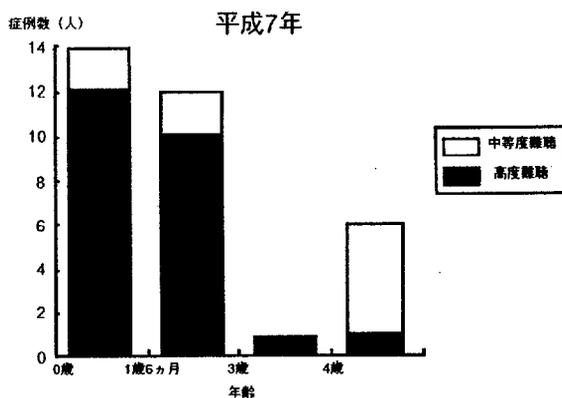


図1 難聴症例の受診年齢

4) 4歳以後に来院した難聴症例について検討した。

イ) 高音急墜型あるいは高音漸傾型の難聴が多い。言語の発達があるので見逃されやすい。

ロ) 心臓疾患などの合併疾患があると見逃されやすい。心臓疾患のためと考えられたり、精神運動発達の遅れのためと

考えられてしまう。3歳児健診も受診していない。

ハ) 就学時期になり相談に受診する症例がある。補聴器装用が困難である。

症例1: 男児 6Y (静岡)

言葉の遅れはなかった。

平成6年12月13日~23日 ムンプス罹患

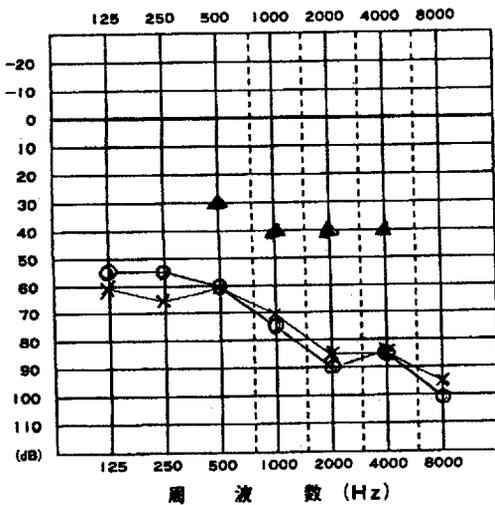
平成7年2月13日 テレビの音が聞こえなくなった。

平成7年3月2日 某病院手鼓膜チューブ留置したが、聞こえがよくなる。

家族歴: 母方祖父母に聴覚障害がある。

ABR:R90dB

L90dB



マスキング \_\_\_\_\_ 右 dB 左 dB  
 (右) 75.0 dB (左) 71.3 dB (4分法)  
 平均聴力 (右) 79.2 dB (左) 75.8 dB (6分法)  
 RION ▲両HA⊕ peep show test RP-92B

純音聴力検査

症例2: 男児 4Y4M

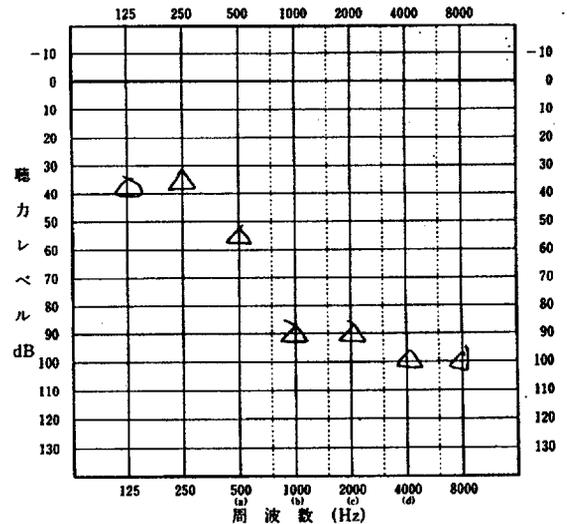
2940gにて出生。ファロー四徴症

1Y3M 心臓手術し人工呼吸器管理42日

聞き返しが多い、単語がわからないことがある、言葉が遅れている。

ABR:R90dB

L90dB



遊戯聴力検査 (peep-showtest)

症例3: 男児 6Y5M

5Y某大学病院受診し、ABR施行し、

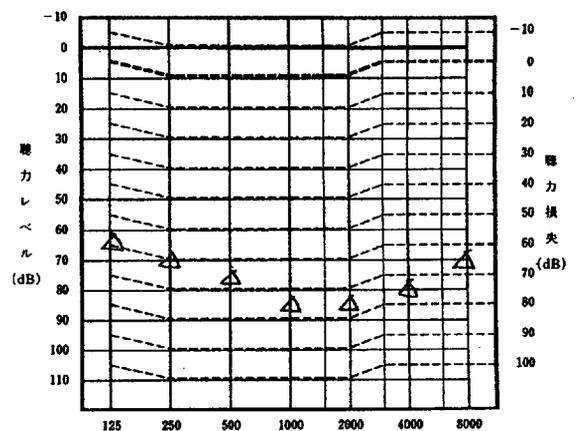
中等度難聴と診断されたが、

本人が嫌がるので装用していない

父4級、母2級の聴覚障害

ABR:R90dB

L90dB



遊戯聴力検査 (peep-showtest)



**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約 : 東京都における 3 歳時の難聴の発見率は、平成 7 年度 0.01%であった。厚生省案と指こすりによる難聴のスクリーニングの効果は上がっている。一方、国立小児病院における 3 歳児の精密検査難聴はなく、滲出性中耳炎や鼻咽腔閉鎖不全が診断された。難聴のため受診した年齢は 2 歳代が最も多かった。3 歳以後に受診し、難聴診断が遅れた症例について検討した。